

31F-am13

モンゴル国ウランバートル市の地域薬局における服薬指導

○中島 理恵¹(¹東京医歯大)

【緒言】途上国では、処方箋なしでの処方箋薬の売買が日常的に行われており、薬局での服薬指導が唯一の専門家による医薬品情報提供手段となる。抗菌剤は小児から高齢者まで幅広く用いられる医薬品だが、中には重篤な副作用を持つものもあり、専門家による十分な指導が必要である。本研究では、モンゴル国の地域薬局における抗菌剤売買時の服薬指導の実施に関する情報を得て、途上国における医薬品情報提供の在り方を検討した。

【方法】モンゴル国、ウランバートル市の 250 の地域薬局において医薬品を購入し、参加への同意が得られた 619 名の顧客へインタビュー調査を行った。調査項目は、顧客の年齢、性別、購入した抗菌剤の名称、抗菌剤購入時に処方箋を持参したか否か、服薬指導の有無（用法、用量、副作用、アレルギーの有無）である。

【結果】対象薬局において顧客に頻繁に販売された抗菌剤は、アモキシシリン、アンピシリン、スルフアメトキサゾール・トリメトプリム、メトロニダゾール、セファゾリン、クロラムフェニコールであった。対象薬局を訪れた顧客の 48.0% が抗菌剤を購入し、その内 42.1% が、抗菌剤を購入する際に処方箋を持参した。抗菌剤購入時に受けた服薬指導の内容と頻度は、用法 (64.0%)、用量 (58.6%)、副作用 (7.6%)、アレルギーの有無 (6.6%) であった。

【考察】モンゴル国の薬局ではアレルギーを起こすペニシリン、再生不良性貧血を起こすクロラムフェニコールといった重大な副作用を持つ抗菌剤が処方箋なしで売られていた。抗菌剤を購入した顧客の内、医薬品の使用に関する指導（用法・用量）を受けた者は 6 割、医薬品の安全に関わる情報（副作用・アレルギーの有無）を受けた者は 1 割以下であった。